

神楽名

かわち 河内神楽

伝承地

上河内・奥鶴・下河内地区
高千穂町大字河内

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

河内神楽保存会
代表 戸高 重喜



山 森

◆ 神楽の概要・由来・その他

高千穂神楽の^{かみの}上野・^{たばる}田原系統に属する神楽である。河内地区は高千穂の西端に位置し、熊本と大分方面に通じる昔からの交通の要所である。かつては宿場町で、人の往来が多く賑やかであった。上河内と奥鶴地区は^{くまのなるたき}熊野鳴瀧神社で、下河内地区は北野天満宮で「神迎え」を行い「道行き」には御神体を乗せた神輿を担ぐ。熊野鳴瀧神社は牛神を祀っているため、舞い手（^{ほうししゃ}祝子者）は、祭りの3日前から牛肉を食べないしきたりとなっている。

氏神社の熊野鳴瀧神社は旧河内村の総鎮守で、古くは「熊野本山十二社権現」と称し、上宮である「鳴滝の宮（熊野六社大権現）」を合祀しており、「牛神様」として遠く熊本県や大分県の人々から信仰を集めていたため、神楽彫り物に牛神が祀られている。

◆ 芸能の機会・場所

- 河内夜神楽... 1月第2土・日曜日、熊野鳴瀧神社または北野天満宮にて神事後、神楽宿（主に公民館）にて奉納
- 歳旦祭、紀元祭、春・秋の彼岸、春・秋の大祭、210日祭、天神祭等で奉納

◆ 演目一覧

宮神事	道行き	舞込み	^{ひこまい} 彦舞	^{かみおろし} 神降	鎮守	^{すぎのぼり} 杉登
^{じがため} 地固	^{ぶちかんぜ} 武智神添	住吉	^{ゆみしょうご} 弓正護	^{いわぐり} 岩潜	^{やぼち} 八つ鉢	^{じわり} 地割
^{たちかんぜ} 太刀神添	御神体	五穀	^{おきえ} 沖逢	^{しちきじん} 七貴神	^{ひかんぜ} 幣神添	^{やまもりくち} 山森の口
^{やまもり} 山森	^{ほんはな} 本花	^{だいじん} 大神	^{しばひき} 芝引	伊勢	^{たちからおのみこと} 手力男命	^{うずめのみこと} 鈿女命
^{とり} 戸取	^{まいびらき} 舞開	^{くりおろし} 繰下				

※平成27年1月の神楽奉納番付に基づく

❖ 演目の特徴

「山森の口」は河内神楽独特の演目である。太刀や弓を持った舞い手、神主、鹿猪(獅子)、柴を持った勢子(荒神)、山の神などが外注連を3回まわって内注連(神庭)に舞い込む。続く「山森」は七つ七声半なく大鹿を退治しその皮を取って、宮鼓(太鼓)を作ったという歌に基づいた演目で、最後に鹿猪(獅子)が神庭で舞う。「繰下」は注連口と繰下とが一緒になっているが、内注連(神庭)の中だけで舞われる。「住吉」が火伏神楽として舞われ、「芝引」では「布刀玉命」ではなく「芝引きのげん太夫」が柴を引くと云われているなど、高千穂の他地区と異なる特徴が多くみられる。

❖ その他の特徴

- 面... 舞開き、鈿女、素菱鳴尊(入鬼神)、猿田彦、芝引、手力雄、戸取 等
- 楽... 太鼓、笛、ガタ、鉦(道行き・舞込みで使用)
- 装束... 白衣、白袴、素襖(麻)、千早、裁着袴、毛笠、どっさり、烏帽子、天冠 等
- 採り物... 鈴、榊、扇、御幣、杖(荒神杖等)、弓、矢、刀、麻緒、折敷、帯、木札 等
- 文書... 「伊勢祝言」(天保11年)、「荒神問答」(明治22年) 等

❖ 伝承の現状・課題

太平洋戦争で舞い手(祝子者)の多くが出征し、三十三番の演目の継承が困難になった。いくつかの演目は途絶えてしまったが、当時の師匠が孫の世代に伝え二十七番が伝承された。近年「八つ鉢」を下川登神楽から習い復活させ、現在は二十八番が奉納されている。学校卒業後地元に残る若者が少なく、後継者の確保が重要な課題である。外注連(やま)の立て方、左緋の注連縄の作り方、供物やその意味などを継承していく為、祭の準備をする村役目の後継者を育てることも行っている。



道行き (神輿)



芝引



鈿女